

【熊本国税局長賞】

SDGsと繋がる税

合志市立西合志南中学校

三年 甲 斐 香 帆

「税」と聞いてすぐに思いつくのは一番身近に感じる消費税だろう。近年消費税が引き上げられた事でより身近に感じられるようになったと思う。自分も「税」といえば消費税だと思っていた。しかし、消費税以外の税に焦点を当ててみると興味深いことが沢山あった。その中でも私が特に興味をひかれたのは「炭素税」だ。

ヨーロッパの国々で早くから導入されている炭素税。環境保全を目的として課する環境税のうちの一つである。地球温暖化の原因となっている二酸化炭素を出す燃料に税をかけることで化石燃料の使用を減らすのがねらいだそう。地球環境を守るために、人や企業の活動を税でコントロールしていることに、私は驚いた。また、ここから得られた税金は、省エネルギー対策や自然エネルギーの普及、環境保全費用へ使用される決まりとなっている。

炭素税は、SDGsの目標十三「気候変動に具体的な対策を」に対する取り組みとして、日本でも二〇二二年に本格導入が検討されていたが、二〇二二年度税制改革では、見送ることで方針が決まったのだ。炭素税というのを当時全く知らなかった私は「どうでもいいな」としか思っていなかったが、これはつまり、税はSDGsにも繋がっているということだ。なぜ導入しなかったのかと今は疑問に思う。日本でも大きな課題となっている環境問題。その問題を税で解決できるかもしれないことを知ったとき、私は衝撃を受けた。税は公共インフラや社会保障、政府のために使われると思っていたから、これは新しい発見だった。

今後、SDGsの取り組みにも多くの税を投入しなければなくなるかもしれない。財政赤字の日本はますます負担が大きくなるだろう。炭素税を導入することで、二酸化炭素も減り、環境への対策が促進していくのなら、炭素税は素晴らしい税だと私は思う。身近に感じない、馴染みのない税も、将来的に私たちを支えてくれる税なのだ。

税について知っていくなかで、中学生だからこそ、税について深く考え、知るべきだと思った。どうでもいいと思っではないけない。自分も日本を支えている一人なのだ。知ること新しい発見があることもある。皆さんにも、税について一度考えてみてほしい。私たち一人一人が意見をしっかりと持って、税と向き合っていかなければならない。私たちの将来、日本の未来や環境をつくるのは私たちなのだから。